

中部地区 公民館だより

第152号

令和5年9月29日発行
上山市中部地区公民館
上山市十日町4番11号
TEL 673-2588
FAX 673-0379



投げて
飛ばして
汗かくです💧



狙いを定めて
それー！



優勝



《輪投げの部》

伊藤幸子さん(新町)

《フライングディスクの部》

ディスクゲッター

玉宮武彦さん(中十日町)

アキュラシー

阿部節子さん(中十日町)



8月23日(水)、生涯学習センター体育館で、中部地区フライングディスクと輪投げ大会が開催されました。猛暑日続きで、熱中症警戒アラート発令中となり、休憩と水分補給を多く取り、熱中症に気を付けながらの開催となりました。講師の笹原京子さん、佐竹絹子さんから競技上の注意などがあり、「くれぐれも怪我のないように気を付けて、暑さを吹き飛ばす気持ちで頑張ってください」と激励をいただき、競技を開始しました。

各競技とも、狙い通りに決まると大きな拍手と歓声があがり、「大声で笑い、声援を送るのはやっぱり良いね」「汗かくけど気持ちはさわやかだね」と元気な声が聞かれました。フライングディスク競技では3種目を予定していましたが、飛距離を競うディスタンスを急遽取りやめにし、時間を短縮して大会を終了しました。参加者の皆さん、スタッフの皆さん、暑い中大変お疲れさまでした。

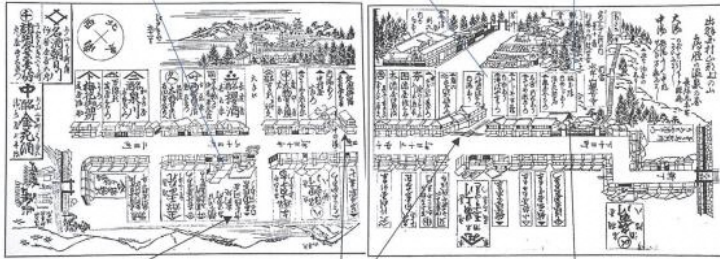
一般講座 (江戸時代の上山)

8月25日(金)、文化財専門員の荒木さんをお迎えして、「江戸時代の上山」と題して講演会を行いました。

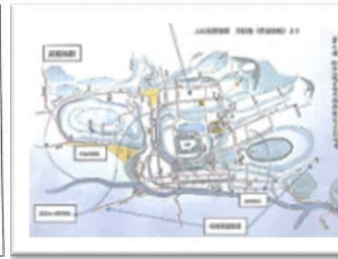
江戸時代のしくみや村請制度、江戸時代の十日町と現在の十日町などの話をとてもわかりやすく、笑いをまじえながら説明していただきました。

資料を参考にとすると江戸時代、中部地区公民館は定飛脚宿だったようです。

参加者の皆さんからは、笑いといっしょに「へ～」「ほ～」など感心する声が聞こえてきました。帰る際には「今度は自分の住んでいる所の話を聞きたい」「楽しかった。もう少し時間を長くしてほしい」「次はいつするの？」など、次回を期待する方が多かったようです。



講座で使用した資料の一部



荒木文化財専門員

けん玉講習会

9月10日(日)、日本けん玉協会長井支部支部長の齋藤直樹さんをお迎えし、けん玉教室を行いました。

最初はけん玉をする時の基本姿勢を教えてくださいました。30分を過ぎたころには正しい基本姿勢で、大皿に玉を乗せる事ができるようになりました。

なかなか大皿に玉を乗せる事が出来ない人も、一人ひとり教えていただき、できるようになりました。それからは、少しずつ基本の技を覚えていきました。

「軽い運動のつもりだったけど、けっこうハードだった」「けん玉って、全身運動なのね」というような感想をいただきました。



講師の齋藤ご夫妻



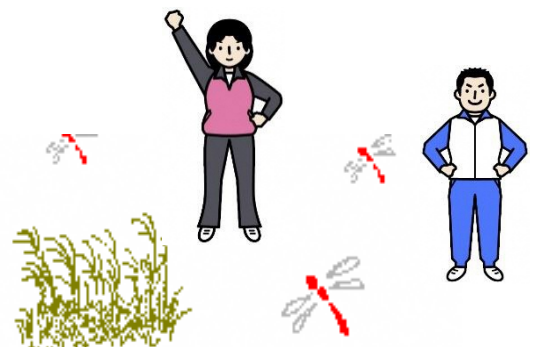
実践する姿も、待つ姿も様になってます

参加者募集

参加申込は10月4日(水)
午前9時から受付します。

街歩きウォーキング④&歩き方講習

日時	10月23日(月)午前9時30分から
場所	中部地区公民館 多目的ホールで歩き方講習 終わりたい街歩きウォーキング
講師	歩き方 東海林 美佐江さん 街歩き 新町地区会長 布川和雄さん
対象	中部地区在住の方
募集人数	20人(定員になりしだい締切ります)
申込締切	10月16日(月)
参加料	無料
持ち物	屋内シューズ、タオル、飲み物



健康ポイント対象事業 20P 付与

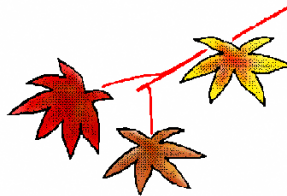
参加者募集

参加申込は10月4日(水)
午前9時から受付します。

男の七宝焼き教室

日 時 10月31日(火) 午前9時30分から
場 所 中部地区公民館 多目的ホール
講 師 西郷地区公民館職員
対 象 中部地区在住の男性の方
募集人数 10人(定員になりしだい締切ります)
申込締切 10月20日(金)
参 加 料 500円
持 ち 物 必要な方は飲み物、老眼鏡など

フリット法による七宝焼き
キーホルダーをつくります



ヨガ教室 1回目

日 時 11月7日(火) 午前10時00分から午前11時30分
場 所 中部地区公民館 多目的ホール
講 師 ヨガインストラクター 鏡 実優さん
対 象 中部地区在住の方
募集人数 15人(定員になりしだい締切ります)
申込締切 10月30日(月)
参 加 料 無料
持 ち 物 ヨガマットがある方はお持ちください
タオル、必要な方は飲み物



健康ポイント対象事業 20P 付与

はこべの会 サロン

管理栄養士さんによる「緑黄色野菜摂取量」
と「血管年齢」の測定

日 時 10月20日(金) 午前10時から
場 所 中部地区公民館 会議室1、2
会 費 無料

公民館大掃除

ボランティア募集

日 時 11月4日(土)
午前8時から9時

*ご協力いただける方は
10月27日(金)までご連絡ください

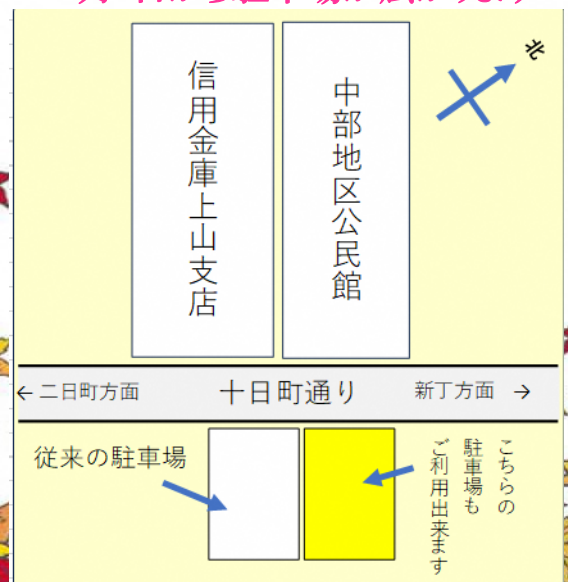
10月の予定

4日(水) 第2回地域づくり委員会
14日(土) 地域の宝さがしウォークラリー
20日(金) はこべの会 サロン
23日(月) 街歩きウォーキング④
25日(水) はこべの会 学習会
27日(金) 第2回公民館運営協議会
31日(火) 男の七宝焼き教室

10月の百歳体操

5日、12日、19日、26日

10月1日から駐車場が広がります



地域の宝再発見

NO.85

のぶまさ

みるめはら

藤井松平氏シリーズ3.「松平信将侯」～3.「見目原騒動～町方と在方の呼応」

延享四（1747）年4月から米が高騰し始めました。見る目が原騒動の発端の様子として町方の出来事が記されています。5月初めに小升一升四十二文、小売りはなく貧しき者は困り果て、十日町、二日町、新丁から定職無い町人足が八幡河原に寄り合っはちまんかわらて米屋への陳情を御役所に申し出ようとのことになりました。そこで町役人は才覚で米十駄（馬一頭が背負う荷物三十六貫（135kg）の十頭分）を準備して十日町寒河江屋にて一升四十二文、一軒につき一日三升を販売する手だてを講じました。

ところが5月13日の亥刻いのこく（夜10時）から子刻ねのこく（真夜中）夜になると三々五々人夫が集まりはじめ「米の値上がりを待っている米屋がある」「町内裕福店には隠し米がある」「懷を肥やしている者は貧しき者を見下す者がいる」「山形では米屋を打ち毀したぞ」「今晚中に吟味が必要だ」と言い合っいて、町内商人の家、二階まで押し入っいておよそ300人が散々に打ち破り、鯨波けいは（勝鬨かちどき）を挙げて走り回りました。

役所ではお城の四ヶ所の入り口を嚴重に警護しましたが、騒動を鎮圧しない間に、騒ぎが広がり町内の大店では表に筵を敷いて酒樽を出し心任せに酒を吞ませる算段をする商店がありました。討ち入り衆が吉野屋松本長兵衛宅に押し入ろうとしたところ、片脇から長兵衛の亡き父甚兵衛は享保の飢饉で米価が高騰した折に米沢より兵糧米をあつらえてやや値引きして分け与えたことがあった、その厚恩を忘れてはならないと吉野屋の店の前を何もなく打ち過ぎました。その他、評判の悪い店では、仏具位牌までも打ち毀したうえ屋敷前の酒樽をひっくり返して酒が土蔵内、裏庭まで川のように流れ出たお堀の鯉、鮒などおびただしく浮き死にし、打ち毀こわし一行は火の元の始末をして再び鯨波（勝鬨）

をなして駆けだしたと書かれています。当日は満月で騒然とするなか、大手門、湯の上観音堂鏡橋通りの固めはいうまでもなく、北町、裏町、二日町、矢来鷹匠町口に役人が出向き防備を固めていました。

ところが北町川原、仙石橋辺で対岸に町方の早鐘で火事だと聞きつけてお百姓が出向いていたのでした。しかし、郡奉行増戸庄右衛門殿が火事ではない子細いんぎんを懇懇に説明しましたが、それでも町方、在方の話は仙石川原を挟んで続き、ようやく寅の刻明け方になって東が白みはじめたのでそれぞれ自宅、村々に引き上げました。

しかし、翌16日になると、百姓は田畑へ出ても仕事手につかず、町方の噂や百姓自身が関根見る目原に集まって窮状を話し合うことが持ちきりで、お役所では徒目付、下目付の情報に大目付が目を光らせて相談をしていました。役所では、騒動が発生した折は隣国、江戸表にも知れ渡るために安平に鎮めることに意をくだき、結果として飢えに困らないよう上郷惣百姓に物価高調整金として金二百両、米三百俵を救済として講ずることを決めました。

騒ぎだてが荒立ってきた中川村への通りでは、その外町方や下郷方には別段救済策ないのでお役所の裁定に承服せず、今晚見る目原にて寄り合い談合するからお役所の策をもって来られよと在方衆はお役所役人に強訴上申しました。そしてお百姓衆、町方に回状を発し「万一今日の寄り合いに漏れる村々は永く格別扱い」と定め、見る目原への準備をしました。

※参照文献：もっぱら「奥海道五巴」⑭を参照しました。その他に「上山市史」、「上山三家見聞日記」⑰、「上山間見聞隨筆」⑱⑲を参照しました。